

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

平成30年4月17日に小学校6年生と中学3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果を報告します。

報告内容

- 1 調査への参加状況
- 2 教科に関する調査の結果から
- 3 質問紙調査（生活や経験について）の結果から
- 4 質問紙調査の結果と教科に関する調査の結果との関係から
- 5 結果をもとにした安城市の傾向と対策

1 調査への参加状況

学校種別	校数	参加児童生徒数
小学校	21校	1,845人
中学校	8校	1,808人
合計	29校	3,653人

2 教科に関する調査の結果から

全国学力・学習状況調査の対象であった小学校6年生と中学校3年生全体の状況を、それぞれ国語A・B、算数A・B、理科の順に記す。全国公立学校全体の状況と比較をして、各教科それぞれについて、教科の総合判定として「たいへんよくできている」「よくできている」「おおむねできている」「やや劣っている」「努力を要する」の5段階で示した。

また、それぞれの教科の区分別に、「◎：大変優れている」「○：優れている」「△：課題がある」「▲：より課題がある」の4段階で示した。（以下の例参照）

（例）

教科の総合判定

A教科 「よくできている」

◎	書く能力	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることができる。
△	読む能力	目的に応じて必要な情報を捉える。

この場合、A教科において、総合判定としては「よくできている」となり、区分別では、「書く能力」に関する問題について、◎「大変優れている」。「読む能力」について、△「より課題がある」となる。区分それぞれの出題の趣旨も合わせて記している。

＜小学校6年生の状況＞

国語A（主として知識） 「努力を要する」

△	知・理・技 (※1)	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う
△	知・理・技	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く
▲	知・理・技	相手や場面に応じて適切に敬語を使う
▲	知・理・技	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う

※1 「言語についての知識・理解・技能」を「知・理・技」と省略した。(以下同じ)

※2 上記以外の「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の観点について、特記事項はなし。

国語B（主として活用） 「やや劣っている」

○	話す・聞く能力	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える
○	関・意・態(※1) 話す・聞く能力 書く能力	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる
△	関・意・態 書く能力	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く
△	関・意・態 書く能力 読む能力	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む
▲	関・意・態 書く能力	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える
▲	書く能力	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える

※1 「国語への関心・意欲・態度」を「関・意・態」と省略した。(以下同じ)

※2 上記以外の「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の観点について、特記事項はなし。

＜小学校6年生の状況＞

算数A（主として知識） 「やや劣っている」

○	知識・理解 (※1)	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している
○	知識・理解	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している
△	知識・理解	直径の長さと同周の長さの関係について理解している
△	知識・理解	百分率を求めることができる
▲	技能(※2)	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる
▲	技能	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる

※1 「数量や図形についての知識・理解」を「知識・理解」と省略した。(以下同じ)

※2 「数量や図形についての技能」を「技能」と省略した。(以下同じ)

※3 上記以外の「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」について特記事項はなし。

算数B（主として活用） 「おおむねできている」

○	数学的な考え方	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる
△	数学的な考え方	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる
▲	知識・理解	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる

※ 上記以外の「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」について特記事項はなし。

<小学校6年生の状況>

理科 「やや劣っている」

○	思考・表現 (※1)	より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる
△	知識・理解 (※2)	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している
△	思考・表現	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる
△	思考・表現	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる
▲	知識・理解	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している
▲	思考・表現	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる
▲	思考・表現	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる
▲	思考・表現	電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる
▲	思考・表現	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる

※1 「科学的な思考・表現」を「思考・表現」と省略した。

※2 「自然事象についての知識・理解」を「知識・理解」と省略した。

※3 上記以外の「自然事象への関心・意欲・態度」「思考・表現」「観察・実験の技能」「知識・理解」について特記事項はなし。

＜中学校3年生の状況＞

国語A（主として知識） 「おおむねできている」

◎	知・理・技 (※1)	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く
◎	知・理・技	行書の基礎的な書き方を理解して書く
○	読む能力	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる
▲	知・理・技	文脈に即して漢字を正しく書く
▲	知・理・技	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う

※1 「言語についての知識・理解・技能」を「知・理・技」と省略した。

※2 上記以外の「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」について特記事項はなし。

国語B（主として活用） 「おおむねできている」

○	読む能力	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる
▲	話す・聞く能力	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す

※ 上記以外の「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」について特記事項はなし。

＜中学校3年生の状況＞

数学A（主として知識） 「おおむねできている」

◎	知識・理解 (※1)	座標平面上に点の位置を示すことができる
◎	数学的な技能	数量の大小関係を不等式に表すことができる
◎	知識・理解	一次関数の意味を理解している
◎	数学的な技能	指数を含む正の数と負の数の計算ができる
◎	知識・理解	多数回の思考の結果から得られる確率の意味を理解している
○	知識・理解	最頻値は資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している
○	数学的な技能	一次関数 $y=ax+b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる
△	知識・理解	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している
△	知識・理解	空間における平面と直線との位置関係（面と辺が平行であることを）を理解している
△	数学的な技能	見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる
△	知識・理解	連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解している
▲	知識・理解	証明の必要性和意味を理解している

※1 「数量や図形などについての知識・理解」を「知識・理解」と省略。(以下同じ)

※2 上記以外の「数学への関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「知識・理解」について特記事項はなし。

＜中学校3年生の状況＞

数学B（主として活用） 「よくできている」

○	数学的な技能	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる
○	見方や考え方 (※1)	発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる
○	数学的な技能	与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる
○	見方や考え方	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる
△	見方や考え方	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる
△	見方や考え方	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

※1 「数学的な見方や考え方」を「見方・考え方」と省略した。

※2 上記以外の「数学への関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「知識・理解」について特記事項はなし。

＜中学校3年生の状況＞

理科 「おおむねできている」

◎	知識・理解 (※1)	オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる
○	思考・表現 (※2)	「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる
○	観察・実験の 技能	ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる
△	思考・表現	光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる
△	思考・表現	1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる
△	思考・表現	炎の色と金網の付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる

※1 「自然事象についての知識・理解」を「知識・理解」と省略した。

※2 「科学的な思考・表現」を「思考・表現」と省略した。

※3 上記以外の「自然事象への関心・意欲・態度」「思考・表現」「観察・実験の技能」「知識・理解」について特記事項はなし。

3 質問紙調査（生活や経験について）の結果から

安城市の結果データをもとに全国と比較した。それぞれの質問内容は文部科学省によって次の8つに分類されている。

①	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	…	(主体的・対話的)
②	学習に対する興味・関心や理解度等 (理科)	…	(理科、興・関、理)
③	学習に対する興味・関心や理解度等 (算数・数学)	…	(算数、数学、興・関、理)
④	規範意識、自己有用感等	…	(規範意識、自己有用感)
⑤	学習習慣等	…	(学習習慣)
⑥	基本的な生活習慣等	…	(基本的な生活習慣)
⑦	地域や社会に関わる活動の状況等	…	(地域・社会)
⑧	各教科の調査時間の適切性	…	(調査時間)

※紙面上以下は右の（ ）の言葉で省略する表現をする。

また、それぞれの質問内容について、よいと思われる回答が全国と比べて多いものを「○：多い」と示し、課題があると思われる回答については「△：少ない」と示した。(以下の例参照)

(例)

○	規範意識、 自己有用感	将来の夢や目標を持っている
△	学習習慣	家で、学校の授業の予習・復習をしている

この場合、質問紙調査において、「規範意識、自己有用感」について「将来の夢や目標を持っている」子どもが、全国に比べて「多い」という結果となる。「学習習慣」について「家で、学校の授業の予習・復習をしている」子どもが、全国に比べて「少ない」という結果となる。

＜小学校6年生＞(全国の割合との比較)

【よいと思われる回答】

○	地域・社会	地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある
○	地域・社会	今住んでいる地域の行事に参加している
○	地域・社会	5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった

【課題があると思われる回答】

△	地域・社会	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある
△	地域・社会	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
△	理科 興・関、理	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている
△	理科 興・関、理	理科の授業の内容はよく分かる
△	理科 興・関、理	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている
△	規範意識、 自己有用感	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
△	主体的・対話的	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う
△	主体的・対話的	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う
△	地域・社会	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある
△	学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている
△	理科 興・関、理	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
△	理科 興・関、理	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
△	理科 興・関、理	5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができた

<中学校3年生> (全国の割合との比較)

【よいと思われる回答】

○	学習習慣	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している
○	学習習慣	家で、学校の授業の予習・復習をしている
○	学習習慣	家で、学校の宿題をしている
○	地域・社会	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある
○	理科 興・関、理	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしている

<中学校3年生> (全国の割合との比較)

【課題があると思われる回答】

△	規範意識、 自己有用感	自分には、よいところがあると思う
△	地域・社会	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
△	地域・社会	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）
△	理科 興・関、理	理科の勉強は大切だと思う
△	理科 興・関、理	理科の授業の内容はよく分かる
△	主体的・対話的	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う
△	基本的な生活習慣	毎日、同じくらいの時刻に寝ている
△	規範意識、 自己有用感	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
△	規範意識、 自己有用感	将来の夢や目標を持っている
△	地域・社会	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
△	数学 興・関、理	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
△	数学 興・関、理	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている
△	理科 興・関、理	理科の勉強は好きである
△	理科 興・関、理	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある
△	理科 興・関、理	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
△	理科 興・関、理	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
△	理科 興・関、理	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
△	理科 興・関、理	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している
△	理科 興・関、理	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている
△	主体的・対話的	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う

4 教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果との関係から

安城市の児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで4層（高い順にA～D層）に分け、質問紙結果を比較して見られる傾向の主なものを記載した。

<小学校6年生>

【正答率が高い層にみられる傾向】

基本的な生活習慣	放課後に習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている児童が多い
地域・社会	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童が多い

【正答率が低いD層に特にみられる傾向】

規範意識、自己有用感	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う児童が少ない
基本的な生活習慣	毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童が少ない
基本的な生活習慣	毎日、同じくらいの時刻に起きている児童が少ない
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童が少ない
基本的な生活習慣	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている児童が少ない
地域・社会	5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う児童が少ない

＜中学校3年生＞

【正答率が高い層にみられる傾向】

規範意識、 自己有用感	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う生徒が多い
基本的な生活習慣	朝食を毎日食べている生徒が多い
基本的な生活習慣	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）読書をしている生徒が多い
地域・社会	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心のある生徒が多い
地域・社会	新聞を読んでいる生徒が多い
主体的・対話的	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う生徒が多い
主体的・対話的	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた生徒が多い
主体的・対話的	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う生徒が多い

【正答率が低いD層に特にみられる傾向】

各教科の回答	各教科の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明したり、文章を書いたりする問題に対し、最後まで解答を書こうと努力しなかった生徒が多い。
--------	---

5 結果をもとにした安城市の傾向と対策

各教科の正答率と質問紙調査の結果の相関関係や経年比較などから見えてきた安城市の傾向とその対策について、以下の4点にまとめた。

①「各教科の興味・関心、理解度」に関する傾向について

A B問題については、B問題の方がA問題より正答率が高い傾向が見られた（P. 2・3、P. 5～7）。（中学校国語のみA問題とB問題の正答率はほぼ同じであった。）また、小学校国語のB問題において「書く能力」に課題が見られた。

質問紙調査では、小学校、中学校それぞれにおいて、理科の「興味・関心、理解度」の項目に、他の教科と比べて否定的に回答する児童生徒が多く見られた（P. 10・12）。

対策： 各教科のつまずきに対応した授業づくりを推進し、学習に対する興味・関心を高める授業改善を図る。

B問題の正答率がA問題と比較して高い傾向があるため、資料から必要な内容を取り上げてまとめるなど、学習したことを活用する機会を充実させる。

「書く能力」については、毎時間の学習の振り返りの記述などを充実させていく。

②「主体的・対話的で深い学び」に関する傾向について

中学校では、「主体的・対話的に取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られた。また、正答率が高い層ほど、地域・社会への関心が高かった（P. 14）。

経年比較では、主体的・対話的な学びに関する項目で児童生徒、学校ともに「できている」「実施している」と答える割合が高くなってきており、徐々に浸透してきていることがわかった（P. 15～17）。

対策： 授業では、考えを仲間と深めたり、情報を文章や図表で書いたり発表したりすることで、学んだことに実感をもたせていく。

特に、総合的な学習のなかでは、地域や社会につながりをもつ授業づくりを推し進める。

③「規範意識・自己有用感」に関する傾向について

質問の分析から、「規範意識・自己有用感」のある児童生徒ほど正当率が高くなる相関関係が見られた（P. 13、14）。

小中学校ともに「規範意識・自己有用感」につながる質問に「当てはまる」と答えた児童生徒数は全国に比べて少ない（P. 10・12）が、経年比較においては、年々「規範意識・自己有用感」が高くなってきている傾向がみられた。また、「規範意識・自己有用感」に関する取組を行う学校が増えてきていることがわかった（P. 15～18）。

中学校では、最後まで解答を書こうと努力しない生徒について、正答率が低い傾向が見られた（P. 14）。

対策： 学級での所属感、自己有用感を高めながらも、決まりを守る意識を育む学級づくりを推し進めるため、担任が学級集団の実態を図り、効果的に学級経営に生かす体系作りを進める。

④「基本的生活習慣」・「学習習慣」に関する傾向について

小・中学校ともに「基本的生活習慣」が身に付いている児童生徒ほど各教科の問題の正当率が高くなる相関関係が見られた（P. 13、14）。特に、小学校では「基本的生活習慣」や「学習習慣」が身に付いていない児童ほど各教科の正答率が低い傾向が見られた（P. 13）。

経年比較をみると、教師の家庭学習への働きかけの意識が高くなってきている傾向が見られた（P. 17、18）。小学校では、計画を立てて勉強したり、読書の時間が長くなったりする児童が見られるなど、「学習習慣」への意識が高くなってきている傾向がみられた（P. 15）。

対策： 特に小学校においては、教師と保護者が児童の学習計画を立てる支援をするなど、これまで以上に学校と家庭が連携して支えていく。

安城市の学習支援ソフト（eライブラリ）の家庭学習機能を普及し、学校と家庭がともに学びを進める。

図書情報館との連携のもと、読書活動の更なる普及に努め、読書による心の成長を促すよう啓発していく。